

都士会 News

NO.237



「東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム」の体力測定会

contents

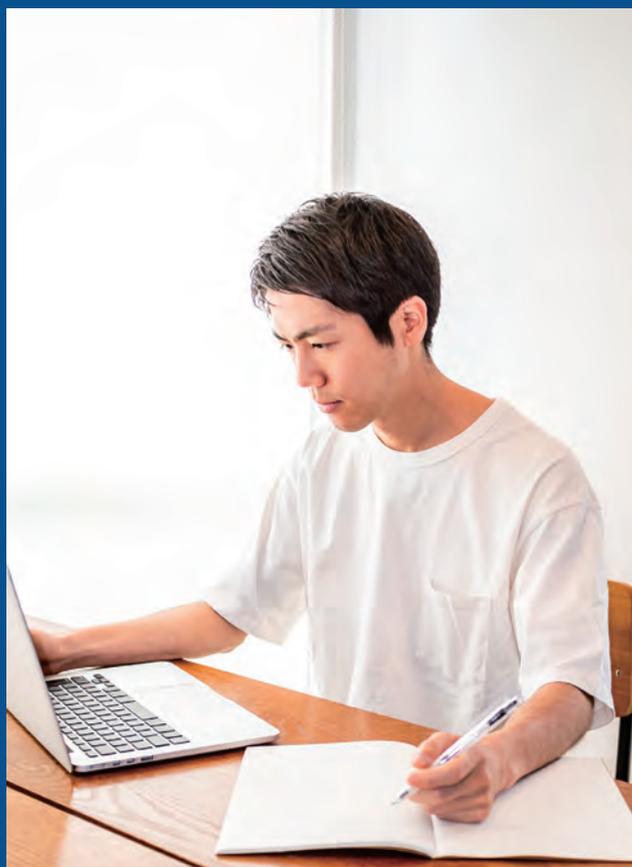
動画配信管理委員会	2 ~ 3	卒前教育検討委員会	31
東京都理学療法士協会部局紹介（事務局）	4 ~ 5	スポーツ局スポーツ支援・推進部	32 ~ 38
東京都理学療法士協会部局紹介（渉外局）	6 ~ 7	スポーツ局子どもの健康・安全部	39 ~ 43
エスカレーターマナーアップ推進委員会	8 ~ 9	スポーツ局人材育成部	44 ~ 45
災害対策委員会	10 ~ 13	スポーツ局パラスポーツ部	46
地域活性局	14 ~ 28	倫理委員会	47
渉外局医療報酬	29	学術局学術誌編集部	48 ~ 49
広報局外宣部	30	編集後記	49

tokyo PT 2026

TPTA動画配信サイト

2026.3.1
登録開始！

講座の配信は
2026/4/1より順次開始します。



利用登録方法

01

理学療法士協会マイページ内のセミナー検索を表示

02

セミナー番号で検索

東京都士会員：155266 他県士会員：155268

03

セミナー登録後、自動返信メールを受信
掲載URLよりOneStreamに登録(※)

※講座の視聴には**OneStream**への登録が必要です。

本セミナー番号の有効期限は、**2026/3/1～2027/3/28**です。
楽しみにお待ちください。



公益社団法人
東京都理学療法士協会

問い合わせ先
動画配信管理委員会
tpta-vcn@googlegroups.com

動画リクエスト募集

あなたの声が教材になります！

リクエストは
QRコードをスキャン



問い合わせ先
動画配信管理委員会
tpta-vcn@googlegroups.com



公益社団法人
東京都理学療法士協会

こんな動画
を見たい！

- 評価法をおさらいしたい
- 脳卒中の治療法を知りたい
- ○○先生の講義を聞きたい

・・・等々

皆様のリクエスト
お待ちしております！

事務局

渋谷区代々木に事務所を構え、東京都の認定を受けた公益法人として都民の医療・保健・福祉の増進に寄与すべく活動するにあたり、円滑な法人運営と理学療法士の社会的信頼を支えるため、主に以下の業務を担っています。

- ・ 理事会が定めた方針に基づいた事業計画の管理および東京都への報告。
- ・ 公益法人特有の会計基準に基づいた決算・財務管理。
- ・ 定款・法令に基づく運営や内部統制の構築。
- ・ 会員の入退会・会費・生涯学習制度に係る管理。
- ・ 都民からのお問い合わせへの対応。等

東京都理学療法士協会の運営や活動に関するお問い合わせは、ホームページ内の問い合わせフォームから。

📧 <https://www.pttokyo.net/form>



業務執行理事 岡安 健
東京科学大学病院



局長 中澤幹夫
多摩丘陵リハビリテーション病院

財務部

本会が行うすべての事業が、法令や定款に基づき適正に運用されている

ことを「事業計画・予算」および「事業報告・決算」として正確に書類化し、東京都へご報告する重要な責務を担っています。

・ 事業の計画から実行までのトータルサポート 4月1日から翌3月31日までの事業年度に基づき、年度開始前には「事業計画書・収支予算書」を、年度終了後には「事業報告・決算書類」を厳格に作成します。これにより、すべての事業が公益のため、会員のために計画され、正しく実行されたことを担保します。

・ 「適切な書類化」による活動支援、学術研修会、地域貢献活動などの各種事業が滞りなく実施できるよう、資金面での裏付けを行うとともに、そのプロセスと実績を「適切な文書」として形にすることで、各部の活動をバックアップしています。



部長 鈴木 正則
東京衛生学園専門学校

総務部

法人運営に必要な各種会議の準備および管理運営を担っています。総会・理事会などにおいて、開催案内や資料の準備、会場設営、当日の運営・進行管理、終了後の必要な手続きまでを行い、円滑な開催を支えています。あわせて、組織図や年間予定表の作成など、運営に必要な基本資料の整備も担っています。

主な事業として、理事会・拡大理事会における準備・運営全般、ならびに毎年6月に開催される代議員総会の準備・運営を担当しています。そのほか、総務に関する各種事務および調整業務を行い、法人活動が円滑に進むよう対応しています。



部長 柴原 格
東京科学大学病院

書記部

理事会や総会、各種懇談会の議事録作成とその管理を担っています。議事録作成にあたっては、情報の整理と記録の正確性を重視し、協会理事役員に限らず、会員の皆様に対して正確な情報をお届けできるように運営を行っています。

書記部は「見えないところで協会活動を支える」役割を担いつつ、都士会の信頼性と透明性の確保に寄与することを目指して活動を続けています。

ライフサポート部

研修、調査、会費割引制度などを通して、会員の皆様の仕事と生活を支援する活動を担っています。

■オンライン研修会の実施 昨今の状況に合わせ、オンラインにて年3回程度実施しています。母子保健・産業保健などの新規分野から、労務管理、就労支援まで、幅広いテーマを取り上げています。

■会費割引制度の利便性向上 JPTAの育休・シニア会費割引が承認されると、本会の会費も連動して自動的に割引される仕組みを整えました。また、独自に実施している「0歳～満3歳の子を育てる被扶養者会員」を対象とした育休割引も継続しています。

■外部活動と連携 関東甲信越ブロックの「働きやすい環境創り検討委員会」に出席し、各都県の先進的な取り組みを共有し、東京の活動に活かしています。

【部員募集中！】私たちと一緒に事業を企画・運営してみませんか？興味のある方は、メールアドレスまでお気軽にご連絡ください。

✉ email : lifesupport@pttokyo.net



部長 知脇 希
帝京平成大学

渉外局



業務執行理事
中澤 幹夫
(多摩丘陵リハビリテーション病院)



局長
医療報酬部 部長
廣瀬幸子
(玉川病院)



次長
渉外部 部長
吉葉則和
(日本リハビリテーション専門学校)

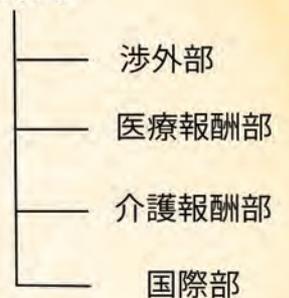


介護報酬部 部長
神原舞子
(NPO法人 ふくし住まい支援の会)



国際部 部長
菅原令子
(独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター)

渉外局



渉外局は、部員24名で活動しています。関連諸団体や他職種との連携・調整を担い、理学療法士の社会的基盤の強化と職域の発展に取り組んでいます。

渉外部・医療報酬部・介護報酬部・国際部はお互い協働しながら事業を進めており、その他には、協会指定管理者研修会（初級・領域別）を開催し、管理者として必要な知識の習得と人材育成を推進し、また修了者による管理者ネットワークを構築し情報共有と意見交換を通じて、医療の質向上と地域・都民への貢献を目指しています。

渉外部

渉外部は昨今、理学療法士の活躍の場が病院や施設のみならず、一般企業にも広がりがみられます。健康増進や予防リハビリの場面でも理学療法士の力が必要とされています。渉外部では多職種との情報交換や展示会出展などの活動を行っております。



医療報酬部

医療報酬部は、診療報酬に関する調査・分析や情報提供を通じて、理学療法士の業務適正化と支援を行っています。都内施設を対象とした実態調査、診療報酬・介護報酬に関する相談・助言、診療報酬に関する講習会などを実施しています。近年は新入職者向けの診療報酬基礎講習会にも注力しています。本会ホームページでは、診療報酬改定情報を発信し、調査結果の公開や相談窓口もご案内しておりますのでぜひご覧ください。



介護報酬部



介護報酬部では、介護保険施設等で活躍する理学療法士の就労実態や、介護報酬改定が現場に与える影響の調査・分析を行っています。

直近2年間は特別養護老人ホームに焦点を当てた調査を実施してまいりました。介護保険分野では「一人職場」となるケースも多く、孤独感や課題を抱えやすいのが現状です。私たちは調査を通じて現場の声を拾い上げ、結果に基づいた研修会を開催することで、悩みの共有や問題解決の一助となる場を提供しています。

国際部

国際部では、主な事業として韓国ソウル市理学療法士協会との交流事業を継続的に行っています。相互訪問や病院見学による意見交換を通じて、臨床や教育、地域リハビリテーションに関する取り組みを共有し、国や文化の違いを超えた学びを深めています。こうした国際交流で得られた知見は、会員の視野を広げるとともに、都民の皆さまへ提供する理学療法の質の向上にもつながっています。国際部は今後も、公益社団法人としての役割を意識しながら、開かれた学びの場づくりを進めていきます



座談会振り返りリーフレット完成報告

リーフレット完成

日時：2026年2月7日（土）

夏休みに行った子どもイベント「共生社会ってなんだろう？」の振り返りとして、ポッチャの講師として参加してくれた特別支援学校に通う高校生と、参加者の小学生とわたしたちスタッフで座談会を行いました。イベント当日は聞くことができなかった、障がいやバリアフリーに対する考えを共有することができました。

立場の違いを想像し、体験し、言葉にする学びから見えた「やさしい社会」のヒントを振り返り、様々な視点から考えることができました。その内容をリーフレットにまとめました。このリーフレットは、参加してくれた小学校での配布や、学会、都民向けイベントでの配布を予定しています。WEB版も作成予定です。

特設 HP：<https://www.pttokyo.net/esca/>



報告者：石川 愛香（森山脳神経センター病院）

神奈川大学におけるエスカレーター事故防止の取り組み

このたび、神奈川大学において、当委員会が作成したエスカレーター事故防止に関する啓発動画をご活用いただきました。学内の共用スペースに設置された大型モニターで動画が放映されており、「エスカレーターは立ち止まって利用する」ことの大切さが、学生・教職員・来訪者に向けてわかりやすく伝えられています。

エスカレーターは日常的に利用される設備である一方、歩行や追い越しによる転倒や接触事故のリスクも指摘されています。今回のように映像を通じて注意喚起を行う取り組みは、利用者一人ひとりの意識を高め、安全な行動につながる有意義な工夫だと感じました。本動画が、学内の安全な環境づくりの一助として活用されていることを、大変うれしく、また心強く思っております。



<エスカレーターマナー 動画>
日本語動画 URL：
<https://youtu.be/MRBqxaKEEMM>
(2019年公開)

英文動画 URL：
<https://youtu.be/6FBq6xhKglQ>
(2025年公開)



報告者：小林和樹（竹川病院）

委員長 石川 愛香

3月8日は「エスカレーターの日」ー 移動の手段としてのエスカレーターを、理学療法士の専門性から考える ー

3月8日は「エスカレーターの日」です。これは、日本で初めてエスカレーターが一般公開された日に由来しています。

エスカレーターは、駅や商業施設、大学、病院など、私たちの生活に欠かせない移動の手段の一つです。一方で、歩行や追い越しによる転倒・接触事故のリスクがあり、とくに高齢者やバランス能力・下肢筋力に不安を抱える方にとっては、環境の影響を受けやすい移動場面といえます。近年では、「エスカレーターは立ち止まって利用する」ことが安全面から推奨され、各地で啓発活動が行われています。当委員会でも、誰もが安心・安全に過ごせる社会の創造を目指す一環として、キーホルダー作成やイベントの実施などの啓発活動に取り組んできました。

エスカレーターの利用には、姿勢制御や動的バランス、視覚情報処理など、私たちが日常的に評価・介入している機能が複合的に関与しています。そのため、事故は個人の身体機能のみで生じるものではありません。当事者への助言に加え、誰もが自然に安全な行動を選択できる環境を整える視点が重要です。立ち止まりやすい動線、わかりやすい情報提示、行動を誘導する仕組みなど、環境側の調整によってリスクを低減することは、理学療法士の専門性と深く関わる取り組みといえるでしょう。

「エスカレーターの日」をきっかけに、移動の安全を人と環境の相互作用として捉え、専門職として何ができるのかを、会員の皆さまと改めて考えていきたいと思えます。

報告者：小林和樹（竹川病院）

東京都「心のバリアフリー」サポート企業登録について

日時：2026年2月吉日

2015年より、エスカレーターマナーアップを通して、心のバリアフリーの推進を担う当委員会を法人内に設置し、法人内における「心のバリアフリー」への理解促進に取り組まれました。また、社会に対しても心のバリアフリーの普及啓発に取り組んでおり、本年で活動開始から10年目を迎えました。そこで、東京都「心のバリアフリー」サポート企業に応募し、この度、東京都理学療法士協会として、「心のバリアフリー」サポート企業に登録されました。メリットとしては、「心のバリアフリー」サポート企業の登録証が発行され、サポート企業として東京都のホームページで企業名が公表されます。「心のバリアフリー」を推進する団体であることを、社会に今まで以上に発信することができます。

今後、「心のバリアフリー」がさらに法人内に浸透して、多様な能力の発揮、多様な他者とコミュニケーションがとれる活力ある職場の実現、多様性によるイノベーションの創出につながっていくことを期待し、わたしたちも今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。

報告者：石川 愛香（森山脳神経センター病院）



<エスカレーターマナーアップ推進委員会>

○各種お問い合わせ (Mail) : esca.pttokyo@gmail.com

○Facebook URL : <https://goo.gl/nnXZcQ>

○X (旧 Twitter) : URL https://twitter.com/tomanoru_esca

○まんが教材 特設 HP : <https://www.pttokyo.net/esca/>

2023年6月9日から特設サイトよりまんが教材の無料提供を開始しております

エスカレーターマナー 動画

○英文動画 URL : <https://youtu.be/6FBq6xhKglQ> (2025年公開)

○日本語動画 URL : <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM> (2019年公開)



<特設 HP QRコード>

第 23 回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

東京都理学療法士協会では、東京都作業療法士会および東京都言語聴覚士会と合同で、毎年 2 回実施している災害時安否確認システムの予行演習を、下記の内容で実施いたします。皆さまの積極的なご参加をお願い申し上げます。

【災害時安否確認システム】

概要： Google フォームを使用した安否確認情報登録

目的： 大規模災害等発災時における安否状況や各地域の被災状況を確認し災害支援に役立てる



【災害時安否確認システム予行演習】

日時： 2026 年 3 月 11 日 (水) ～ 2026 年 3 月 18 日 (水)

対象： 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ※会員・非会員は問いません

方法： 下記の URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスし情報を登録して下さい

備考： 東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会との合同開催となります
施設単位ではなく個人単位での参加（登録）となりますのでご注意ください

< URL >

<https://forms.gle/mus9FEmNRp72BTxeA>

< QR コード >



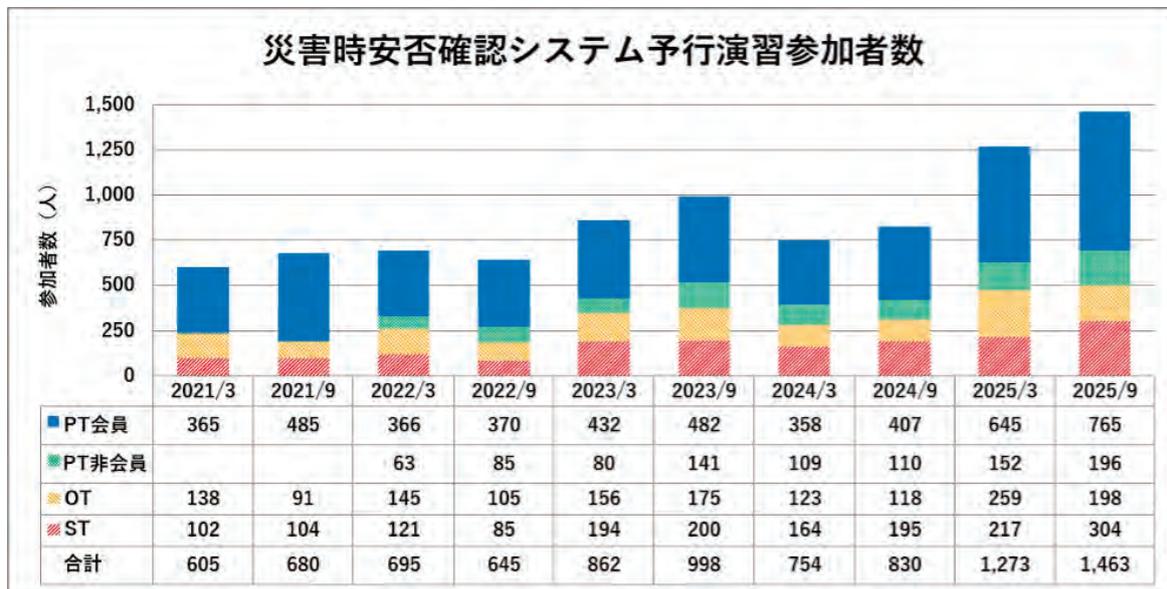
【お問合せ先】

医療法人財団健貢会総合東京病院 診療技術部 リハビリテーション科 松本浩一（理学療法士）

TEL: 03-3387-5119 (直通) / E-mail: tokyopt.saigai@gmail.com

災害時安否確認システム予行演習結果

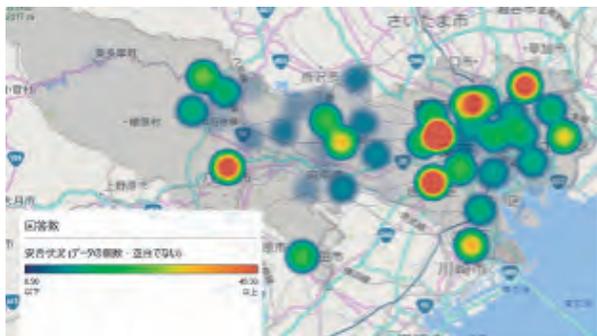
●参加者数 ★短期目標：会員参加者数 1,000 名（会員の約 1 割）以上



●参加会員数_ヒートマップ ※赤色：多⇔青色：少

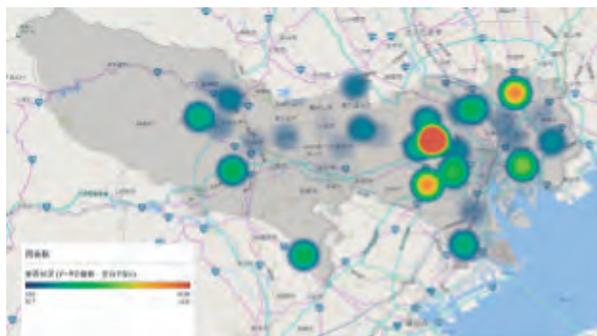
◇第 22 回：R7.9.1～9.8

◇第 21 回：R7.3.11～3.18



◇第 20 回：R6.9.1～9.8

◇第 19 回：R6.3.11～3.18



令和7年度 関東ブロック DMAT 訓練 参加報告

- 日 時： 2026年1月31日（土）8:00～17:00
- 目 的： 多摩東部直下地震を想定した、関東ブロックの各都県 DMAT や関係機関との連携による、病院支援及び医療搬送等の訓練を実施し、大規模地震時における医療救護活動の充実強化を図る。
- 主 幹： 東京都 保健医療局 医療政策部
- 参加機関： 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、厚生労働省、防衛省、東京 DMAT、DPAT、DHEAT、DWAT、JDAT、JRAT、透析医療ネットワーク、東京都医師会、東京都歯科医師会、東京都薬剤師会、東京都看護協会、災害時小児周産期リエゾン、日本赤十字社、都立病院機構、東京都（関係各局）
- 内 容： 東京都 JRAT の人員・資機材を「東京都 JRAT 災害対策本部（慶應義塾大学 信濃町キャンパス）」、「東京都庁本部（東京都庁）」、「調布本部（調布市役所）」に分散配置し、本部立ち上げや各本部間の連携、支援業務調整などの訓練を実施。
- 参加者： 東京都 JRAT として本会会員が参加

東京都庁本部の様子①



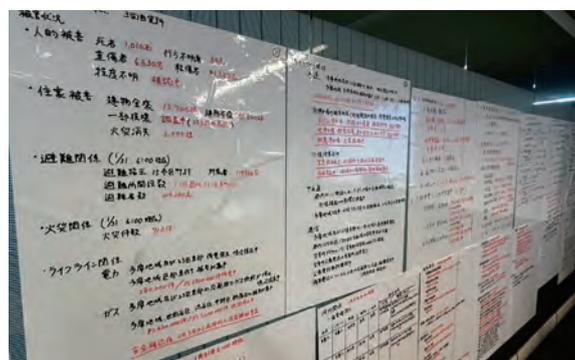
東京都庁本部の様子②



東京都 JRAT 本部の様子①



東京都 JRAT 本部の様子②



～所感～

東京都と東京都 JRAT との間での協定締結後、初の大規模訓練への参加となり、各機関との緊密な連携を実体験する極めて有意義な機会となりました。抽出された課題を精査し、体制の強化や対応の標準化につなげていきたいと思っております。今後は、災害リハビリテーションの視点から地域防災力の向上に寄与するとともに、次代を担う人材育成にもより一層注力してまいります。

報告者：松本浩一（災害対策委員会）

災害対策委員会研修会 開催報告

【REHUG ファシリテーター養成研修会…①・研修会「REHUG」…②】

日 時： ① 2025 年 12 月 6 日（土）13:00～17:00・② 2025 年 12 月 7 日（日）9:00～13:00

目 的： 災害時におけるロジスティクス要員の育成

講 師： 佐藤 亮 氏（熊本県災害リハビリテーション推進協議会 事務次長）

形 式： 対面（座学・演習）

参加者数： ① 20 名（PT10 名・OT6 名・ST2 名・医師 1 名・介護支援専門員 1 名）

② 38 名（PT26 名・OT7 名・ST2 名・医師 2 名・介護支援専門員 1 名）

【東京都 JRAT 「E- スタッフ養成研修会」…③】

日 時： 2026 年 1 月 11（日）9:00～13:00

目 的： 災害時におけるリハビリテーション支援要員の育成

形 式： 事前研修（オンライン動画配信）+集合研修（座学・演習）

参加者数： 23 名（PT19 名・OT4 名）

（研修会①②③共通）

会 場： 慶應義塾大学 信濃町キャンパス

対 象： 医療・介護・福祉専門職 ※参加無料

主 催： 東京都災害リハビリテーション支援関連団体協議会（東京都 JRAT）

共 催： 東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会
東京都（区西部）地域リハビリテーション支援センター

研修会①



研修会②



研修会③



～所感～

リハビリテーション関連職種による協働の下、災害時を想定した「ロジスティクス要員（本部運営要員）」および「避難所等支援要員」の育成を目的とした研修会を開催いたしました。当日は理学療法士をはじめとする多様な職種の方々に参加いただき、シミュレーションを交えた実践的な研鑽を積む機会となりました。今後も多職種連携を軸に、災害時に対応できる体制構築と人材育成を進めてまいります。

報告者：松本浩一（災害対策委員会）

西多摩南多摩ブロック部 羽村市支部 健康セミナー 開催報告

日 時：令和6年12月20日（土）14：00～16：00

会 場：羽村市産業福祉センター

参加者：31名、PT都士会員スタッフ6名（講師含）

都民を対象に「肩・首こりセミナー～猫背・巻き肩・スマホ首気になるあなたへスッキリ解消～」といったテーマで開催し、会場にて講義と実技を行いました。

講義では肩こりの発生機序や種類、姿勢や自律神経との関係について紹介しました。実技では参加者同士で姿勢、可動域のセルフチェックを実施後、ストレッチや肩の運動、主動作筋の働きを意識しながら棒体操を実施しました。

参加者の年齢層は30代から80代まで幅広く、日ごろから肩の痛みに悩まれている方が多かったです。また、自身の上肢の可動範囲や姿勢を運動前後で確認をすることで、「姿勢の崩れに対する気付き」や「効果の実感」が得られ、満足度の高い内容となりました。

今後も参加者の気になるテーマを取り上げ、楽しみながら講義や体操を行っていきたいと思います。



報告者：棚谷祐昌（羽村三慶病院）

区西北部ブロック部

児童館における「理学療法士によるからだケア講座」実施報告

日時：令和7年10月～令和8年2月

場所：板橋区内児童館（8児童館）

対象者：乳幼児を子育て中の保護者

実施回数：全8回

参加者：延べ115組の親子

（※保護者のみの参加を含む）

担当講師：理学療法士3名

内容：

例年ご好評をいただいている本事業を、今年度も板橋区内の児童館にて実施しました。本事業は、乳幼児を子育て中の保護者を対象に「理学療法士によるからだケア講座」として実施し、子育て期に多い肩こり・腰痛・抱っこによる身体負担への対応や、日常生活の中で取り入れやすいセルフケア・体操の紹介を目的としています。

講座では、座学と実技を組み合わせ、保護者が自身の身体に意識を向けながら実践できる内容を中心に構成しました。児童館職員の皆様のご協力のもと、泣いてしまう子どもがいる場面でも柔軟に対応しながら、和やかな雰囲気の中で講座を進行することができました。

参加者からは、「理学療法士の話を直接聞けて安心した」「その場で質問ができてよかった」「家でも続けてみたい」といった声が多く聞かれ、各児童館において概ね好評でした。また、児童館職員の方々からも、「保護者の満足度が高い」「専門職による講座のニーズを感じる」との評価をいただきました。

地域の保護者と直接関わり、生活背景や悩みを伺うことは、理学療法士にとっても学びの多い貴重な機会となりました。本事業を通して、子育て期における身体ケアの重要性と、理学療法士が地域で果たせる役割の大きさを再認識しました。今後も地域ニーズを踏まえながら、理学療法士の専門性を活かした地域活動を継続していきたいと考えています。



報告者：戸津 由加里（株式会社ガイアメディケア）

区西北部ブロック部 板橋区支部
 社会人アドバイザー交流会 都立板橋高校 活動報告

日時：令和8年2月4日（水）

場所：東京都立板橋高等学校

対象者：都立板橋高校1年生

参加者：生徒約35名

講師：1名 サポートスタッフ：1名

内容：

昨年度に引き続き、社会人アドバイザー交流会を通して「理学療法士」としての働き方や社会での役割・活動を高校1年生を対象に講義してきました。生徒の皆さんは自身が怪我をしたことがある、スポーツ分野



に興味があり将来医療やスポーツ現場で働きたいと思っている方が多く「理学療法士」に興味を持って参加していただきました。身体に障害のある方に対し、動作の専門家として寝返る・起き上がる・立ち上がる・歩くなどの日常生活を行う上での改善を目指すために、動作改善に必要な技術を用いながら治療する役割を果たす主に医療機関・介護分野での働き方や、介護予防や生活支援等、地域社会・行政機



関での働き方、競技復帰や、スポーツ障害予防、コンディショニングを行うスポーツ現場での働き方もあると「理学療法士」としての働き方の幅広さを知っていただく良い機会となりました。

講義の中で実際にストレッチを行い、なぜ身体が柔らかくなったのか、なぜ身体が柔らかくなかったのか「理学療法士」としての思考をお伝えするとともに、私自身が「理学療法士」として働くうえで大切にしている「目の前の患者さんを全員良くする」といった目標とそのために必要なこととして「生涯学習」していく面白さをお伝えしました。生徒の皆さんからは「自分もしっかりした目標を作り、達成できるように頑張ります」や「理学療法士としての楽しさや、生涯学習するという言葉が心に残りました」といった声をいただき、高校1年生の将来の選択肢として「理学療法士」として働くやりがいを伝えられたと実感しました。

今後も地域活動を通し「理学療法士」としての役割を果たすとともに、その役割や活動内容も広く周知していけるよう活動していきたいと思っております。

報告者：佐々木 奨之（医療法人社団 健育会 竹川病院）

区西北部ブロック部 豊島区支部

ウィメンズヘルス：地域における産後女性向けの相談会 活動報告

- ・日時：令和7年12月26日
- ・講師：永野加奈子（東京都立大塚病院）
- ・アシスタント：片見奈々子
- ・場所：区民ひろば千早
- ・対象：親子15組（乳児15名、親17名）
- ・概要：

今年度3回目となる産後女性向け相談会を実施しました。本事業は、昨年度よりウィメンズヘルス事業の一環として継続して取り組んでいるものです。

当日は、肩こりをはじめとする身体症状に関する相談に加え、産後の運動を開始する時期や運動量の目安についての質問、さらにお子さんの成長や育児に関する相談など、幅広い内容が寄せられました。

相談に対しては、姿勢評価や抱っこ・授乳・抱き上げ動作などの育児動作を確認しながら、身体への負担を軽減する方法や、日常生活の中で無理なく継続できる運動について具体的に助言しました。

参加者からは、「育児の合間に取り入れられそうな運動なので、やってみたい」、「子どもがいるので、どこかに通うのは大変。こういうところで運動を教えてもらえてありがたい」といった声が聞かれました。

また、区民ひろば千早のスタッフからは、子どもの成長や動きについても理学療法士へ相談したいという意見が寄せられ、産後女性の不安が自身の身体にとどまらず、子どもの育ち全体に及んでいることが改めて確認されました。

今後も、産後女性への支援に加え、親子双方が安心して取り組める運動内容の工夫を重ねながら、地域における理学療法士の専門性を活かした活動を継続してまいります。



報告者：永野加奈子（東京都立大塚病院）

区西北部ブロック部 北区支部

【活動報告】北区支部 理学療法士による介護予防体操教室

日時：令和7年11月27日（木）、令和8年1月29日（木）

会場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講師：渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

補助：国分空以先生（浮間中央病院）・向家知宏先生（浮間中央病院）

参加者：延べ20名

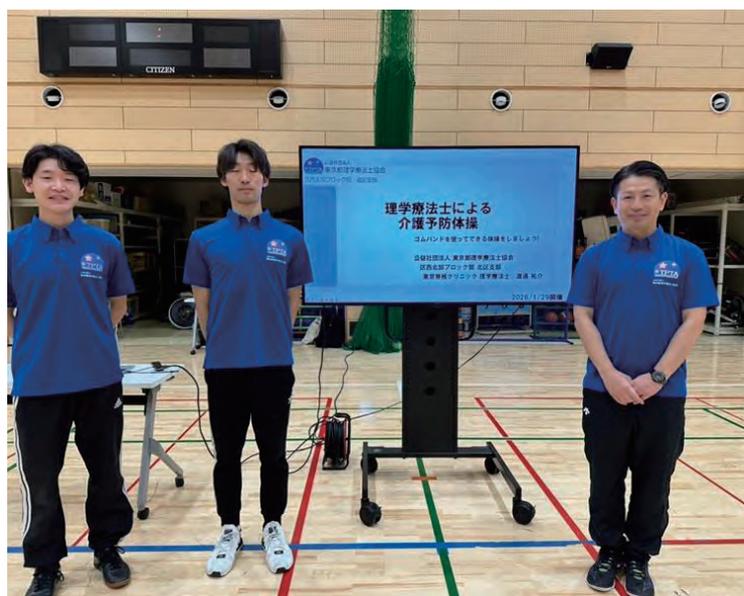
内容：

東京都障害者総合スポーツセンター 介護予防体操教室（第4回目、5回目）

このたび、東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として、障害のある方々を対象に、今年度最後となる体操教室を前回に引き続き実施いたしました。

11月は「ペットボトルを使った運動」、1月は「ゴムバンドを使った運動」を実施し、体が動かしやすくなったり、バランスがとりやすくなるか、というテーマで上下肢の運動を実施しました。今回は片麻痺の方の割合が多く、来場して頂きましたので、運動を工夫しながら、アシスタントの先生にメニューをアレンジして頂きながら実施できました。教室の皆様からも1年を通して楽しめました！など嬉しい言葉を頂きました。引き続き、参加者の皆様楽しんで頂けるような運動を提供していければと考えています。

ご協力くださいました皆様に、心より感謝申し上げます。



報告者： 渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

区西北部ブロック部 北区支部

第17回東京・赤羽ハーフマラソン大会のサポート&相談会 開催報告

日時：2026年1月18日(日)

場所：新荒川大橋区営野球場

参加者：約3215名(ブース来場者137名)

スタッフ：14名

内容：東京・赤羽ハーフマラソン大会のサポートは今回で6回目となりました。昨年同様に天候に恵まれ気温も高く、ランナーの方々も気持ちよく走れたかと思えます。今回のマラソン参加者は3215名であり、東京都理学療法士協会のブースには137名の方に来て頂きました。主なサポート内容はマラソン前の予防テーピングやマラソン前後のストレッチ・マッサージを中心として関わらせて頂きました。ランナーの方からは大腿・下腿部や腰部等の下肢の疲労感や痛みを改善してほしいという訴えが多く聞かれました。ストレッチ・マッサージ中にはランナーの方々へ怪我をしないためのストレッチの重要性などについて伝えることができました。今回、相談・サポート後のアンケートにお答えいただいたランナーの方のほとんどから「また利用したい」とのお声を頂くことが出来ました。今後のサポートにつきましてもランナーの方のニーズにお応えできるように準備して取り組んでいけたらと思います。



報告者 小山竜輝・佐久間龍輝(大橋病院)

区西北部ブロック部 練馬区支部

【活動報告】学校保健事業

日 時：令和8年2月10日（火）

場 所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：5年生 35名

講 師：古庄秀明氏（練馬光が丘病院）

アシスタント：理学療法士5名

内容

練馬区支部では、以前より学校保健事業に携わっており、理学療法士の視点から児童を対象に生涯教育を行っています。今回、5年生を対象に「けがの予防」について講師依頼を頂いたため、けがについての講義と予防策としてストレッチの実技を中心に実施しました。

講義の前半は、けがについて「急性外傷」と「慢性障害」の違い、突き指や捻挫についての基礎知識、応急処置方法、予防方法についての講義を行いました。実際に画像やイラストを用いながら丁寧に説明し、印象に残りやすいように工夫しました。実際に突き指や捻挫を経験した事のある児童も多く、興味・関心が強く見られていました。

後半は、けがの予防としてストレッチを実技形式で行いました。突き指、捻挫に対しては自分で行えるストレッチを指導しました。足関節や指関節は細かな動きになるため、アシスタントの理学療法士が丁寧に一人一人確認をしながら指導しました。また、2人1組で行える下肢のストレッチも指導し、自分だけでなく他者の身体理解も深めながら行いました。

今回の講義がけがの理解や予防の重要性について少しでも多くの児童に伝えられたのならうれしく思います。また、理学療法士が講義・実技を通し、学童期の生涯教育に携わることは、けがの予防への関心や介助を必要としている人への手助け、配慮を行えるきっかけを作ることができると感じ、今後も積極的に学校保健事業に携わっていきたいと考えます。



報告者：久保川優（ライフサポートひなた）

区西北部ブロック部 練馬区支部

【活動報告】学校保健事業

日 時：令和8年1月21日（水）
場 所：練馬区立練馬第三小学校
対象者：5年生 3クラス（31名×3クラス 計93名）
講 師：西田 喜実弥氏（練馬光が丘病院）
アシスタント：理学療法士4名

内容

練馬区支部では、小学校の先生からの依頼を受け、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回、5年生を対象としたけがの予防についての授業を依頼され、練馬光が丘病院の西田喜実弥氏が講師を担当しました。

授業はスライドショーを見ながら実技を交えた講義形式で実施しました。けがが起こる原因や予防の仕方、あるいはけがをした場合の対処法などイラストを用いながら説明しました。児童たちは各々が習っているスポーツや昼休みにどのような運動をしているかなど積極的に発言していました。またどのクラスも半数以上の児童が運動によってけがをしたことがあると答え、実体験も含めた発言が多く聞かれました。

実技は突き指と捻挫を予防するためのストレッチや筋力トレーニングを行いました。実際にストレッチの前に自身の指の柔軟性を確認してもらいストレッチをした後「指が広がるようになった」「関節が軽くなった」などの声が聞かれました。最後に実際にけがをしてしまった場合のRICE処置の仕方を説明し、怪我をしてしまった場合は無理をしないことと必要に応じて病院の受診をするように伝えました。児童からは「けがをせず楽しく運動を続けたい」などの声が聞かれ、改めてけがを予防することの大切さを学べたかと思えます。

今後も学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や活躍について知ってもらうとともに、健康について関心を持ち、児童たちが無理なくできる体操や運動を広めていきたいと思えます。



報告者：阿部 勝俊（医療法人社団翔洋会 辻内科循環器科歯科クリニック）

区西北部ブロック部 練馬区支部

【活動報告】学校保健事業

日 時：令和7年12月16日（火）

場 所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：6年生 38名

講 師：齋田 栄吉氏（辻内科循環器科歯科クリニック）

アシスタント：理学療法士 4名

【内容】

練馬区支部では、小学校の先生からの依頼を受け、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回、6年生を対象とした姿勢指導の授業を依頼され、辻内科循環器科歯科クリニックの齋田栄吉氏が講師を担当しました。

授業の前半はスライドを見ながら講義形式で「理学療法士とは?」「姿勢について」「良い姿勢と悪い姿勢の違いと体への影響」について説明を行いました。児童たちは各々が習っているスポーツや普段の遊びの時の姿勢を質問するなど、積極的に参加している様子が見られました。また外で遊ぶ時間よりもスマホやゲームをする時間の方が長いと答える児童が多く、首の痛みや腰痛を抱える児童もいました。

授業の後半は頭の重さ体験や理学療法士による姿勢チェック、片足立ち保持などの体験も行いました。頭の重さ体験は棒の先に2kgの重錘を装着し、頭部の重さを模して頸部が垂直である場合と前傾した場合の重さの違いを感じてもらいました。また、姿勢チェックは一人ひとりに対して理学療法士が姿勢を確認し、「頭が離れている」「腰がそっている」「まっすぐ立っている」などの項目に該当するかを評価してフィードバックをしました。児童たちは自分の姿勢の特徴に興味を持ちながら、姿勢をよくするためにできる体操やトレーニングについて質問する場面もみられました。実際に体幹トレーニングとしてプランクを体験してもらい、「想像以上に大変だった」「身体を真っすぐにしてるのが難しい」などの声が聞かれました。

今後も学校保健事業を継続し、児童たちの健やかな成長を支援していきたいと思っております。



報告者：阿部 勝俊（医療法人社団翔洋会 辻内科循環器科歯科クリニック）

区西北部ブロック部 練馬区支部

【活動報告】学校保健事業

日付：令和7年11月20日（木）

時間：8：00～12：00

場所：練馬第三小学校

対象：小学校児童114名（38名クラスを3クラス）

講師：久保川優氏（介護老人保健施設ライフサポートひなた） アシスタント：理学療法士3名

内容：

練馬区支部では、学校保健事業の一環として小学校での講演会や児童への授業を継続して行っています。今回、小学3年生の児童を対象とした姿勢の授業を依頼され、介護老人保健施設ライフサポートひなたの理学療法士、久保川優氏が講師を担当し、

授業を実施しました。1時間目から3時間目にかけて、依頼された3クラスを1コマ（1時間の授業：45分）ずつ、順に伺い実施しました。

授業における説明内容は、①理学療法士の役割や仕事について、②姿勢について、として実技を通した授業を行いました。説明の後には模型や各自が体を動かして体験可能な運動を行いました。

授業の前半はスライドショーを使用し、それぞれの場面に適した姿勢を紹介しながら、筋肉や骨など体の仕組みについてと重力が悪い姿勢に与える影響についてお話ししました。児童たちは各々が習っているスポーツや普段の遊びの時の姿勢を質問するなど、挙手して積極的に参加している様子が見られました。授業の後半は頭の重さ体験や理学療法士による姿勢チェック、片足立ち保持などの体験を交えた授業内容でした。頭の重さ体験は棒の先に2.0kgの重錘を装着し、人体の頭部と頸部の重さを模したものをを用いて、頸部が垂直である場合と頭が垂れたときに頸部にかかる重さの違いを実際に感じていました。また、姿勢チェックは一人ひとりに対して理学療法士が姿勢を確認し、「頭が離れている」「腰がそっている」「まっすぐ立てている」のどの項目に立位姿勢が該当するかを判断して児童にフィードバックをしました。児童たちは自分の姿勢の特徴に興味を持ちながら、姿勢をよくするためにできる体操やトレーニングについて質問する場面もみられました。片足立ち保持は2分間の片足立位を保持できるか時間を図りながら、一斉に実施しました。教室内で実施したため、サポートの理学療法士が児童らの間に立ち、バランスを崩した際にサポートできる体制を整えて行いました。

今後も小学校での学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や、健康への関心を持っていただきながら、児童たちが実際に無理なくできる体操や運動を理学療法士として広めていきたいと考えています。引き続き学校保健事業での活動を引き続き行ってまいります。



授業の様子

区西北部ブロック部 練馬区支部

【活動報告】学校保健事業

日 時：令和7年12月16日（火）

場 所：練馬区立光が丘第八小学校

対象者：4年生 46名

講 師：阿部勝俊 氏（辻内科循環器科歯科クリニック）

アシスタント：理学療法士5名

内容：

練馬区支部では、毎年区内の小中学校での授業を積極的に実施しています。今回は10年以上前から実施している練馬区立光が丘第八小学校の4年生に対し、車椅子体験を実施しました。

はじめにスライドを用いて理学療法士の紹介や車椅子の役割や使用目的、使用上の注意点等を伝えました。その後、実技体験として自走組と介助組（乗る+押す）に分かれ、狭路や段差、不整地等を進み、車いす操作の大変さを体験してもらいました。はじめは興奮気味の児童たちでしたが、体験が始まると真剣な表情で車いすを操作していました。全ての児童に「漕ぐ・乗る・押す」体験をしてもらうことができ、多くの感想を持ったようでした。

練馬区支部では、今後も学校保健事業を積極的に行い、子どもたちの健やかな成長を支援するとともに理学療法士の職域の拡大にも努めていきたいと思っております。



報告者：古庄秀明（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 大田区支部

【開催報告】大田区支部研修会① 脳卒中片麻痺歩行再獲得に対する PNF

日時：2026年1月13日

場所：牧田リハビリテーション病院

参加者：29名（うち都士会員数 14名）

スタッフ：5名

内容

今回、牧田リハビリテーション病院で開催された勉強会「脳卒中片麻痺歩行再獲得に対する PNF」に参加いたしました。

これまでの私は、MMT や ROM といった数値評価を重視し、教科書的なアライメントや正常歩行に近づけることを理学療法目標として捉えていました。介入に際しても、座位・立位での正中位保持や、歩行周期の適正化を優先し、患者様の動きを一方向的に「修正」する視点に偏っていたと感じます。

しかし本会を通じ、PNFの本質は感覚入力と運動出力の相関にあり、対象者が本来持っている感覚や運動パターンを尊重しながら、自発的な動きを引き出すことの重要性を学びました。特に講師の松田先生による「歩行の当たり前とは何か」という問いかけは、教科書的な正解が必ずしも個々の患者様にとってのゴールではないと気づく大きな転機となりました。

また、麻痺側への直接的アプローチのみならず、非麻痺側の荷重コントロールや姿勢制御が歩行全体の安定に寄与するという視点も非常に有益でした。今後は、数値や外見上の正しさにとらわれず、患者様が身体をどう捉え、どう動かそうとしているのかという「内的プロセス」を深く洞察し、PNFの知見を日々の臨床に還元していきたいと考えています。



区中央部・区南部・島しょ部ブロック部 大田区支部

【開催報告】大田区支部研修会

テーマ

「足の専門医に聞く理学療法士にも知ってほしい足部の診かた -足部の理解が変える健康-」

講師：吉原 正宣 氏（足と歩行の診療所 蒲田 理事長／形成外科専門医）

日時：2026年2月4日（水）19：00～21：00

会場：社会医療法人財団 仁医会牧田総合病院 A棟 1階 くすのきホール

参加者数：65名

サポートスタッフ：6名

日々の臨床において理学療法士が向き合う歩行や基本動作の土台となる「足部」に焦点を当て、足の専門医である吉原正宣先生をお招きして研修会を開催いたしました。当日は、形成外科専門医の視点から、レントゲン画像の読影ポイントや皮膚温評価の重要性、足部から考える敗血症のリスク管理に至るまで、多角的な視点でご講演いただきました。会場には65名という多くの参加者が集まり、熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。疾患や病期を問わず、足部を起点として健康維持や障害予防を考えることの重要性を再認識する機会となり、参加者からは「足の専門医の視点が非常に勉強になり、明日から即実践したいと思った」との声が寄せられました。本研修を通じ、専門医との連携の重要性と足部評価の奥深さを共有することができ、有意義な事業となりました。最後にご出講いただいた吉原先生ならびにご協力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。



報告者：松下 佳介（東急株式会社 東急病院）

区東部・東北部ブロック部 江戸川支部

第48回江戸川区民まつり 参加報告

日 時：令和7年10月12日（日）

場所：東京都江戸川区 篠崎公園

サポートスタッフ：理学療法士8名

参加者：84名

内容： 第48回江戸川区民まつりにて、江戸川区熟年施設連絡会の協力の中、同連絡会のブースを利用し、理学療法士による体操教室、リハビリ相談会を開催いたしました。当日は天気に恵まれ、65歳以上の高齢者を中心に84名の参加をいただき、午前、午後、合計3回にわたる体操教室、その合間で行ったリハビリ相談会を進めました。体操教室、リハビリ相談会ともに、参加者からお褒めの言葉、健康増進に関する質問を積極的に受けました。

地域住民の方々が抱える身近な悩み、リハビリテーションに対する意見を直接伺い、介護予防への関心の高さを改めて実感しました。また、熟年施設連絡会のスタッフの方々との意見交換を通じて、江戸川区地域住民の熟年者の課題について再確認しました。



報告者：笠原剛敏（東京臨海病院）

西多摩・南多摩ブロック部 症例検討会及び研修会 開催報告

日 時：2025年1月17日（土）
15：00～17：30（症例検討会）
18：00～19：30（研修会）
会 場：東京たま未来メッセ 第2会議室および第4会議室
講 師：松田 雅弘 氏（順天堂大学 保健医療学部）
テーマ：脳卒中患者の装具療法

2025年1月17日（土）、東京たま未来メッセにて、西多摩・南多摩ブロック部主催による症例検討会および研修会が開催された。

症例検討会は2会場で実施され、神経3演題、内部障害2演題、運動器1演題の計6演題が発表された。両会場とも多くの参加者が集まり、西多摩・南多摩ブロック以外からの参加者も多数参加するなど、活発な意見交換と議論が行われた。

研修会では、順天堂大学 保健医療学部の松田雅弘先生を講師にお招きし、「脳卒中患者の装具療法」についてご講義いただいた。装具療法に必要な基礎知識から、課題難易度を考慮したエビデンス、生活を含めたトータルマネジメント、さらに運動療法との関連まで、基礎から実践に至る幅広い内容が示され、経験年数を問わず多くの学びを得られる研修となった。

研修内容に関するアンケートでは、「満足度している」「わかりやすかった」との回答が多く寄せられ、本研修会は大変有意義な機会となった。



報告者 大山善久（青梅三慶病院）

渉外局医療報酬部主催 講習会 開催報告

『令和8年度診療報酬改定に向けて～日本理学療法士協会の職能活動の取組み～』

講師：日本理学療法士協会 野崎展史 氏

日時：2026年2月17日 オンライン開催

対象：理学療法士、その他医療従事者

参加者：316名

内容：

令和8年度診療報酬改定の全容が見えつつある今、我々理学療法士含めた医療従事者にとって大変興味深い話題となりますが、今回はその改定に向けた日本理学療法士協会の戦略的な働きかけや職能活動の在り方について、最新の情勢を交えながら、日本理学療法士協会理事・職能推進課課長の野崎展史氏を講師に招きご講義いただきました。



都士会員だけではなく全国から300人を超える参加者が熱心に聴講していました。

まずは、近年の報酬改定の大きな動向を掴み、令和8年度診療報酬改定を理解するための基礎知識を身に付ける事を目的に、医療提供体制の現状と目指すべき方向性、それに伴う新たな地域医療構想を報酬改定の歴史と共に振り返りました。また、政策ができるまでのプロセスの理解を通じて、職能団体の役割について、分かり易く丁寧に教えて下さり理解を深めることが出来ました。理学療法士の新たな職域として、入院に伴う諸問題の予防としてADL維持向上等体制加算の新設やそれに代わるリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算の新設といった結果への過程や舞台裏の貴重なお話を聞くことができました。

その中で、職能チームが大切にしていることとして「理学療法を必要な人に必要な理学療法を届ける」ことを目標にしていると聞き大変感銘を受けました。

我々が、日々の臨床現場を支える基盤として、職能団体による多角的な働きかけがいかに不可欠であるか、その重要性を再認識する機会となりました。

報告者：医療報酬部 市村篤士（森山記念病院）

理学療法フェスタ 2025 事業報告

2025年11月30日、理学療法フェスタ2025を開催いたしました。多くの東京都理学療法士協会の方々のご協力を頂き、本年も盛況の中無事に行うことができました。

昨年に続き、イオンモール日の出のイベントスペースを使用して本事業を開催し、300名を超えるの地域の方々がご来場くださり、大変ご好評いただくことができました。

開催内容といたしましては、例年通り「測定ブース」にて下肢筋力・握力計測を行い筋力年齢を測定、「相談ブース」では健康相談・理学療法士の進路相談等を行いました。他にも本協会のノベルティ配布を行っております。

今回の活動を通して理学療法士への興味関心を深めていただけたとともに、地域への健康増進活動を行えたと考えています。

イオンモールでの開催ということもあり、お子様からご高齢の方まで多くの方々にご来場いただき、皆様普段行うことのない筋力・握力測定に興味を示し積極的にご参加いただきました。また、昨年ご来場いただいた方が「今年も来ました」と本イベントを楽しみにしていたとお声もいただき大変嬉しく思います。

また昨年の活動を基に、今回は簡単なセルフケア指導にも力を入れ、日常での運動習慣へ繋がるよう尽力いたしました。

今後も都民の皆様へ理学療法士について興味・関心を深めていただきつつ、地域の方々への健康増進活動の一助となるべく活動を続けてまいります。

これからも東京都民の方々に対する理学療法の啓蒙活動のため、皆様のご協力をお願い致します。



報告者 板井恵輔 中村樹 (緑成会病院)

【活動報告】第1回ファシリテーター研修会

開催日時：2026年1月29日（木）18：30～20：00

内 容：研修テーマ『現状の臨床実習体制について』

講 師：イムス板橋リハビリテーション病院 真庭弘樹 先生

方 法：WEB研修（Zoom）

参加者：理学療法士28名

研修スタッフ：池田由美、佐藤俊生、津野弘美、相原圭太、廣瀬昇

【内容】

当研修の目的は、理学療法士教育における臨床実習指導が学習者の成長を支える重要な教育活動である一方で、臨床現場の多忙さ、指導者の負担感、評価・フィードバック方法の難しさ等の課題を整理し、今後求められる実習指導のあり方について参加者間の共通理解を深めることにありました。講演では、新制度による実習を経験した世代が実習指導者となり始め、指導経験の前提が多様化している点が示されました。あわせて、実習指導は指導者個人の知識・技術・態度に加え、組織としての体制（任せる・依頼する仕組み、指導者研修の整備等）が重要であることが提示されました。また、認知的徒弟制／正統的周辺参加および経験学習サイクルを基盤として、学生を「見学→協同参加→実施」へ段階的にステップアップさせる視点が示されました。さらに、2対1指導（協同学習）の利点に加え、比較構造に伴う心理的負担等の留意点が整理されました。

加えて、通常業務と両立させるための時間設計として、「実習指導40時間以内」「課題等5時間以内」の考え方が紹介されました。ハラスメント防止（連絡先交換をしない、個室で指導しない等）や、学生スペースの整備（昼食時は休息可能とする等）を含む、安心して学べる環境づくりに関する具体策も共有されました。

研修会参加者は、病院・クリニックに所属する方が多く参加され、臨床経験が豊富な方々を中心にご参加いただきました。研修内容については「目的に合っていた」「分かりやすかった」など概ね好評であり、「今後の臨床実習や指導者講習会に役立つ」との感想が得られました。また、他施設の運用・実例、実習指導体制の具体例、フロー例、2対1実習のメリット・デメリット、体験—内省—経験のプロセス等が「特に良かった点」として挙げられ、明日からの実践につながる学びが多かったことがうかがえました。

今後は、対象者別（初心者層・中間層）研修の実施、事例検討の充実、学校側との連携強化、運用ツール（チェックリスト等）の整備を進めます。現場負担を抑えつつ学習成果を最大化する実習指導体制の標準化について、継続して検討してまいります。

報告者：廣瀬 昇（帝京科学大学）

【活動報告】杉並区ユニバーサルタイム

日程：2025年12月3日、12月20日、12月24日、2026年1月7日、1月28日

場所：荻窪体育館、上井草スポーツセンター、永福体育館

参加者：68名

派遣理学療法士：16名

スポーツ局スポーツ支援・推進部では、杉並区が実施する地域スポーツ事業「ユニバーサルタイム」へ理学療法士の派遣協力を行っています。現在荻窪体育館、上井草スポーツセンター、永福体育館にて活動を継続しております。

ユニバーサルタイムは、障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが同じ場で安心して身体を動かせることを目的とした取り組みです。理学療法士は安全面の見守りに加え、その場で身体機能や動作の特徴を把握し、個々に合わせた声かけや動作の工夫、環境調整を行いながら運動参加を支援しました。

参加者には発達障害、知的障害、脳性麻痺、脳卒中後遺症などさまざまな背景があり、身体機能だけでなく、理解のしやすさや感覚特性、緊張の強さなどが運動参加に影響している場面も多くみられました。動作を分かりやすく分けて提示する、視覚的な手がかりを用いる、待ち時間や運動量を調整するなどの関わりによって、「難しそうだった運動に参加できた」という変化がしばしば見られました。

本事業は治療を目的とした場ではなく、地域で継続して身体活動を行えるよう支援することが求められます。成功体験の積み重ねや無理のない活動量の調整を意識することで、参加の継続や自発的な運動につながる様子がみられ、理学療法士が地域生活における「活動」や「参加」を支える役割を改めて実感しました。今後も杉並区および関係機関と連携し、安心して運動に参加できる環境づくりと社会参加の促進に寄与していきたいと考えています。最後に、本事業にご協力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



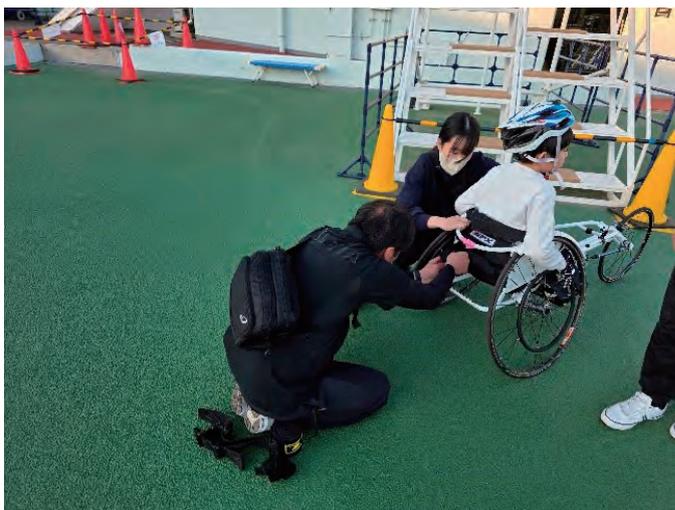
報告者：スポーツ支援・推進部 宮川大（武蔵野みどり診療所）

【活動報告】 EDORIKU パラ陸上教室サポート

・日程：2025年11月24日 ・会場：江戸川区陸上競技場 ・参加者：8名 ・派遣者：3名

江戸川区と東京マラソン財団の協賛で『EDORIKU パラ陸上教室』が全6回開催され、今年度の最終回を迎えました。天候にも恵まれ、トラックを使用して体力測定とレーサー車いすでの走行を実施、最後に100mを計測しました。

理学療法士として私たちは、教室開始前にレーサー車いすの調整、参加者への準備体操および整理体操、レーサー車いすへの移乗介助、シーティング設定、走行サポートなど、定期的な休憩や水分補給を促しながら進めて参りました。レーサー車いすに乗るのが初めての参加者や、初回の教室から体形が変わったり、成長して大きくなられたり、レーサー車いすのシーティング設定に時間がかかる場面もありましたが、サポートメンバーで協力し細心の注意を払いながら、参加者の皆様が安心して楽しく参加して頂けるよう活動致しました。普段は違うスポーツに打ち込んでいる参加者も、レーサー車いすの風を切るスピード感を楽しんで頂く事ができました。今後も色々な年代のたくさんの皆様に、スポーツを通して体を動かす楽しさを伝えていきたいと思っております。今回ご協力下さった皆様有難うございました。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 鈴木真治（森山ケアセンター）

【活動報告】025 高円宮牌フェンシングワールドカップ

- ・日時：2025年12月5日、6日、7日
- ・会場：福岡県 北九州メッツ（旧西日本総合展示場新館）
- ・種目・選手数 男子フルーレ個人戦 216名 団体戦 16チーム64名
- ・サポートメンバー ドクター3名、理学療法士2名
- ・大会参加者：12名

2026年9月に行われるアジア大会の運営視察を兼ね、高円宮牌フェンシングワールドカップ2025の会場サポートに参加して参りました。

会場サポートの内容は、試合中の応急救護で、回外捻挫に対するテーピングの対応や脳振盪の疑われる選手への評価および対応、選手へのアイシングなどを行いました。普段から、東京都で開催されるフェンシング大会でもサポートをしており、テーピングの対応やRICE処置など基本的な対応内容は同様でしたが、国際大会となると選手たちの競技レベルが高いだけでなく、サポートする側として、選手やスタッフとコミュニケーションを取る際、英会話スキルの重要性を実際にご感じることができました。

大会期間中は、重大な事故は発生せず無事にサポートを終えることができました。今回の経験を通じて得た経験をスポーツ局の先生方にも共有し、今後のスポーツ局としての大会運営・サポート活動に役立てていきたいと考えています。

今回、運営に携わってくださった方々、ともにサポートしてくださった先生方に心から感謝と御礼を申し上げます。



報告者： 向家知宏（浮間中央病院）

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

- ・日程：2025年11月22日、12月20日
- ・会場：青山学院大学
- ・参加数：延べ20名
- ・参加スタッフ数：延べ3名

青山学院大学フェンシング部のサポート活動では、主にトレーニング指導やコンディショニング指導を行っております。

トレーニング指導では、基礎トレーニングをはじめ、アジリティ系のトレーニングやバリスティックトレーニングを行っております。また、ウォーミングアップや怪我別のクールダウンを作成し、普段の選手の練習にも活かせるような関わりも行っております。

また、フェンシングは腰痛等を中心に怪我や傷害が多く、多くの選手から相談が寄せられます。それに対し、選手個人に合わせたコンディショニング指導やトレーニング方法を指導しております。

なお、今回はフェンシング部側からの依頼もあり、一次救命処置の講習も実施しております。選手全員が有事の際を想定し、真剣に講習に臨んでおりました。

新チーム体制となってから2カ月程度経ち、選手、チームともに成長を感じております。次のシーズンに向けて1人1人が練習に励んでいるところであり、今後も理学療法士として選手のサポートに全力で取り組んでまいります。



報告者：土橋夏実（三宿病院）

【活動報告】フェンシングサポート報告

- ・日程：2025年12月12～13日、25日～28日、2026年1月8日～11日（述べ13日）
- * 12月26日～28日は2会場で実施）
- ・会場：駒沢オリンピック公園総合体育館、駒沢オリンピック公園屋内球技場、港区スポーツセンター
- ・参加者総数：延べ2499名 ・派遣者総数：延べ34名

スポーツ支援・推進部では2025年度も約70大会ものフェンシング競技大会のサポートを行いました。12月には日本フェンシング協会様から依頼を受け、第78回全日本フェンシング選手権大会のサポートに参加し、医師と協同して選手の外傷・障害の対応をいたしました。

メディカルブース、FOP（Field of Play）とともに帯同した医師の診察後、アイシング、テーピング等の処置を選手に行いました。医師とコミュニケーションをとりながらの急性外傷の救急対応により、大きな事故なく大会を終えることができました。参加していただいた皆さま、ご協力ありがとうございました。

また、2月12日には2025年度の活動総括としてフェンシングサポート報告会をTKP 渋谷ガーデンシティにて実施いたしました。今回は12名の方に参加して頂きました。東京都フェンシング協会専務理事 辻村真一郎先生、東京通信病院 医師 中山修一先生、スポーツ局外部委員 弁護士 阿部新治郎先生、多賀啓先生をお招きし、本年度の外傷・障害報告や研究発表、理学療法士がスポーツの現場で活動を行うための留意点や今後の活動についてのディスカッションが活発に行われました。毎年報告会を開催しディスカッションを繰り返すことで外傷・障害件数も減少しており、フェンシング大会での現場活動が非常にスムーズになっていると感じます。来年度もフェンシングサポートを宜しくお願い致します。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部
生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート報告

- ・日程：2025年12月7日、2026年1月11日、2026年2月1日
- ・会場：東部フレンドホール、小松川さくらホール、江戸川区文化スポーツプラザ、葛西区民館、小岩アーバンプラザ
- ・参加者総数：延べ38名 ・派遣者総数：延べ8名（江戸川区支部4名）

江戸川区で継続的に開催されている「パラスポーツ初心者教室」は、障害のある方や病後の体力低下などにより運動に不安を感じる方など、誰もが安心して身体を動かせる場として実施されています。複数の会場で教室が行われ、会場特性に応じた運営が求められました。今回、東部フレンドホールでは初開催となり、スペースに配慮しながら環境整備を行い、安全に運動できる体制づくりをサポートしました。教室内容は健康運動指導士の講師の先生の指導のもと、フリートレーニングやボルレッジ、マイティーポールを中心に、風船やボール、コーンを用いたレクリエーションなどを組み合わせて実施しました。文化スポーツプラザでは卓球台を活用した運動や、音楽に合わせた新たなプログラムも取り入れられ、参加者が楽しみながら取り組む様子が見られました。理学療法士は、参加者の体調や疲労度、動作の安全を確認しながら、無理のない範囲で活動をサポートしました。リピーターの参加者も増え、動作の安定性や取り組み方に変化が見られるなど、継続参加による成果も感じられました。今後も地域と連携し、安心・安全で笑顔あふれる教室づくりを目指して活動を続けてまいります。



【活動報告】鹿本学園と地域の方々とのスポーツ交流会～ボッチャで交流会～について

- ・日程：2025年10月11日、2026年1月10日
- ・会場：江戸川区鹿本学園
- ・参加者総数：延べ20名
- ・派遣者総数：延べ5名（江戸川区支部2名）

昨年に引き続き、鹿本学園と地域の方々とのスポーツ交流会のサポートを江戸川区から依頼がありましたのでご報告いたします。

このイベントは江戸川区にある特別支援学校の鹿本学園の生徒様（小学部、中学部、高等部）と地域の方々（ボッチャを通じて交流するイベントになっております。今回は10月と1月、2回開催されました。参加した生徒の方々、クラブ活動で普段からボッチャをやっている方、今回はじめてボッチャを行う方々でした。理学療法士は、重度障がいの方の移乗や投球時のランプの操作のサポートを行いました。先生方が試行錯誤、工夫して投球のための装置を作成し、重度障がいがある方でも垣根なくボッチャを楽しむことができました。

今後も生徒の方々（障がいの重症度にかかわらず）スポーツに参加できるように、サポートを続けていきたいと思っております。今回ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

「認定スクールトレーナー (ScT) 事業」

【活動報告】足立区立青井小学校 学校保健委員会「成長期に必要なストレッチングについて学ぼう」

開催日時：2026年1月10日(火) 11時30分～12時40分

会場：足立区立青井小学校 体育館

対象：教諭、保護者、児童

参加者数：32名

講師：渡邊祐介(東京脊椎クリニック/ScT)

参加スタッフ：齋藤弘樹(ScT)、久木田詩穂実、向家知宏

このたび、足立区立青井小学校の学校保健委員会において、「成長期に必要なストレッチングについて学ぼう」をテーマにご依頼をいただき、講話および実技を実施いたしました。事前に養護教諭の先生方からは、「授業中の姿勢の崩れが気になる」「成長期に必要なストレッチングについて知りたい」「運動前後に行うストレッチングを家庭でも実践できる形で伝えてほしい」といったご要望をいただいております。

当日は、授業中に2分程度で実施可能なストレッチングをはじめ、ダイナミックストレッチングとスタティックストレッチングの効果や目的の違いについて、実技を交えながら体感していただきました。また、ご依頼の時期が持久走練習期間であったことから、実際に持久走の前後に取り入れやすいストレッチング内容についても紹介いたしました。

学校保健委員会終了後には、保護者の方より「中学生の息子がおり、スポーツ障害に悩んでいるため、ぜひ一緒に聞きたかった」「実技を通して楽しく学ぶことができた」といったご感想をいただき、本取組が家庭での実践につながる可能性を感じる機会となりました。

今後も、各学校の実情やご要望に応じながら、学校保健事業の充実に努めてまいりたいと考えております。

このような貴重な機会をお与えくださいました青井小学校の皆様、ならびにご協力いただきました理学療法士スタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。



報告者：渡邊祐介(東京脊椎クリニック/子どもの健康・安全部 部長)

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」

【活動報告】神田女学園中学校高等学校 —第三弾 足底評価と正しい靴選び—

開催日時：2025年12月4日（木）9：45～11：40

会場：神田女学園 体育館

対象：中学1年生57名・高校1年生146名

講師：久木田詩穂実（総合東京病院）

参加スタッフ：鈴木享之（ScT）・齋藤弘樹（ScT）・森本孝則（ScT）・守屋百花・佐久間未希・神保日菜向

内容：

本講義は、神田女学園において実施した講義の第三弾として開催されました。

第一弾では「正しい姿勢」をテーマに、姿勢評価を行ったうえで姿勢別にグループ分けを行い、ストレッチおよび筋力トレーニング方法について指導をしました。第二弾では下着メーカーであるワコールと共同で講義を実施し、年齢別の下着の選び方や身体に合った下着選びが将来の身体づくりにつながることを、また呼吸のしやすさとの関係について、講義および体験を通して指導しました。第三弾となる今回は、「足底評価と正しい靴選び」をテーマとした。事前に足底検査を実施し、その結果をもとに「踵」「つま先」「靴の長さ」の3つのパートに分かれて活動をしました。各グループでは、自身の足の形状や動きを観察し、それぞれの視点から靴選びで注意すべき点についてグループディスカッションを行い、発表してもらいました。限られた時間の中でもスムーズに発表が行えるよう、発表用の穴埋め式台本を作成しました。各グループの発表を通して、足の見方には複数の視点があり、それにより靴選びで注意すべきポイントが異なることを共有することができました。学生からは、「自分に合った靴を選ぶために、両足を履いてから購入したいと思った。」といった声が聞かれました。

アンケート結果を集計したところ、中学生では内反小趾を呈している学生が一定数認められた。このことから、つま先にゆとりのある靴を選択することや、靴紐をしっかり締めて靴の中で足が滑らないよう調整することの重要性が示唆されました。一方、高校生では足底検査結果を記載していない学生が多く、アンケートから有意義な分析結果を得ることは難しかった。しかし、授業中に靴底を確認した際、踵部分が大きく削れていることに気づいていない学生が見受けられたため、靴の摩耗が運動パフォーマンスの低下や外傷リスクの増加につながる可能性について説明を行った。アンケート結果については学校へ報告を行い、今後靴の選び方や履き方を見直すためのアドバイスを共有しました。本講義は、学生自身が自分の足に興味を持ち、正しい靴選びを主体的に考える姿勢が育まれ、知識の提供にとどまらず、行動変容を促す実践的な授業となり、非常に成果の高い取り組みとなったと考えます。



報告者：久木田詩穂実（総合東京病院）

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」

【活動報告】「認定スクールトレーナー制度と理学療法士の学校保健活動」研修会 開催報告

開催日時：2026年1月20日（火） 19:00~21:00

開催形式：オンライン開催

対象：学校保健活動に興味のある都士会員及び全国の理学療法士

参加者数：96名

講師：

- ①認定スクールトレーナー制度について / 板倉尚子氏（日本女子体育大学健康管理センター / ScT）
- ②理学療法士が学校保健に関わる為の法的基盤 / 多賀啓氏（パークス法律事務所・第一東京弁護士会）
- ③東京都における活動報告 / 森本孝則氏（Physical Care Room T / ScT）

司会進行：渡邊祐介（子どもの健康・安全部 部長 / ScT）

内容：子どもの健康・安全部では、令和7年度に全3回の研修会を予定しており、その内の第1回目の研修会を開催しました。板倉先生からは、認定スクールトレーナー制度が導入された経緯や現在の取り組みの他、学校保健における理学療法士の位置づけなどの解説がなされました。また今後の社会設計の為に、日本理学療法士協会が関係する各省庁に働きかけを行っていることも紹介されました。多賀先生からは、理学療法士が学校にて活動をする際に注意すべき点を、法律家の観点から分かりやすく教えて頂きました。学校と契約する上での注意点については、今後活動を始める理学療法士にとっても、現在活動している理学療法士にとっても有益となる情報でした。森本先生からは、東京都理学療法士協会がどのような組織体制で学校保健の活動を行っているのか、そして実際に行っている活動について紹介して頂きました。全国に向けて、東京都理学療法士協会の活動を発信する機会となりました。今回の研修会は東京都以外の参加者も多く、とても関心の高いテーマであったことを感じました。子どもの健康・安全部では、今後も様々な研修の内容を企画して、参加者の皆様と共に学ぶ機会をつくり、学校保健活動を発展させていきたいと思っております。



上段 運営：左より 齋藤・渡邊・鈴木

下段 講師：左より 森本先生・多賀弁護士・板倉先生

報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

「認定スクールトレーナー (ScT) 事業」

【活動報告】 学校保健教育・保健指導／アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり

開催日時：2026年2月3日（火曜日） 9：35～10：20

会場：豊島区立富士見台小学校 体育館

対象：小学5年生

参加者数：44名（対面：21名・オンライン23名）

講師：齋藤 弘樹（大橋病院／ScT）

アシスタント：久木田 詩穂実（総合東京病院）・大槻 俊介（大橋病院）・蓮池海生（大橋病院）

内容：学校保健分野における理学療法士の関わりは、児童・生徒の健やかな成長を支えるうえで、その重要性が一層高まっています。今回、小学5年生を対象に、「理想的な姿勢とけがの予防—自分に必要な運動を学ぶ—」をテーマとした講義および運動指導を実施しました。

当日は授業1コマを活用し、対面参加の児童21名に加えて、感染症流行の影響により23名がオンラインで参加するハイブリッド形式で実施しました。講義の前半では、理想的な姿勢とトラブルが起こりやすい姿勢について解説し、姿勢と身体機能の関係を理解できるように、児童が体験しながら学べる構成としました。後半の実技では、体幹機能を高める運動を体験したうえで、事前に行ったセルフチェックの結果をもとに姿勢タイプごとに分かれてストレッチや運動指導を行いました。実施前後の身体の変化を実感できる内容とし、けがの予防に対する理解も深める機会となりました。対面とオンラインを併用した実施は初めての試みでしたが、姿勢の確認や簡単な運動体験を通して、自身の身体の状態に目を向ける様子が見られ、主体的な学びにつながる機会となりました。本取り組みを通して、児童が自分の姿勢や身体の特徴に関心を持ち、日常生活の中で主体的に健康づくりへ取り組む契機になったものと考えます。今後も理学療法士の専門性を生かした学校保健活動を継続し、児童・生徒が安心して学校生活を送るための支援につなげていきたいと思っております。



報告者：大槻俊介・蓮池海生（医療法人財団 逸生会 大橋病院）

「認定スクールトレーナー（ScT）事業」

【活動報告】港区 アイグラン保育園元麻布 学校保健委員会「幼児期の運動発達と遊び（体幹編）」

開催日時：2026年2月4日（水）13時30分～14時30分

会場：アイグラン保育園 元麻布

対象：保育士

参加者数：5名

講師：渡邊祐介先生（東京脊椎クリニック／ScT）

参加スタッフ：向家知宏先生、尾崎庸宏（ScT）

この度、アイグラン保育園元麻布の学校保健委員会において、「幼児期の運動発達と遊び（体幹編）」をテーマにご依頼いただき、講話を実施しました。事前に園長先生から「保育中の園児の姿勢が気になる」「どのようなところに注目して園児の動きや発達を観察し遊ばせればいいのかを知りたい」といったご要望をいただきました。

当日は、体幹をテーマとして発達の順番を意識しながら各月齢での獲得目標動作の説明をしていきました。各動作によってどこの筋肉を使っているのか、使いやすい部位、使いにくい部位などの説明を交えていきました。

研修会終了後には、先生方より「歩いている際に一方向に偏りながら歩いている子がいるがどのようなことが考えられるか」「鬼ごっこをしている際に急に前方に倒れてしまうがどうしてか」「ボール投げや羽子板遊びの際に距離感が掴めない園児がいる」といったご質問もいただき本取り組みが保育現場での乳幼児での発達につながる可能性を感じる機会となりました。

今後も、各学校や保育現場の実情やご要望に応じながら、学校保健事業の充実に努めてまいりたいと考えております。

このような貴重な機会を与えてくださいましたアイグラン保育園元麻布の皆様、並びにご協力いただきました理学療法士スタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。



報告者：尾崎庸宏（Luz 大森整形外科）

【活動報告】「2025年度スポーツ理学療法認定カリキュラム」対面開催

開催日時：2025年11月22日（土） 9時00分～18時00分

会場：対面研修会（日本大学文理学部キャンパス）

参加者数：7名

[講師]

対面研修会：笹代純平先生、鈴木享之先生、青柳壮志先生、小山貴之先生、佐保泰明先生

[内容]

スポーツ理学療法認定カリキュラム（対面）を開催させていただきましたので、ご報告させていただきます。東京都理学療法士協会スポーツ局では、日本理学療法士協会 新生涯学習制度における認定理学療法士（スポーツ）臨床認定カリキュラムの教育機関として認定されています。

内容は、スポーツ現場でご活躍されているご高名な先生方に対面で、障がい者スポーツに関する障害別対応、下肢テーピングや徒手療法、ハイパフォーマンス向上・予防トレーニング、救急対応の実際に関して参加者の方々と実際に身体を動かし、学習いたしました。

今回、講師をして頂いた先生方、対面研修会で会場をご提供いただきました日本大学の小山先生にこの場をお借りして、心より感謝致します。

次年度もスポーツ理学療法認定研修会を開催させていただきますので、スポーツ現場に出られている先生方は、奮ってご参加頂ければと思います。



写真：対面研修会

報告者：スポーツ局 人材育成部 岩山睦（浮間中央病院）

【お知らせ】スポーツ理学療法スキルアップ研修会

公益社団法人 東京理学療法士協会 スポーツ局 人材育成部



2026年度 スポーツ理学療法スキルアップ研修会

対面またはオンライン開催

対象：スポーツ現場で活動したい PT

履修ポイント対象研修会もあります！



スポーツ理学療法認定カリキュラム

WEB4日+対面1日の計5日間

認定スポーツ理学療法士取得のための研修会

開催時期は10月または11月頃を予定



熱中症者の急性期対応

現場での熱中症者に対する対応研修会

効果的なクーリング方法を学ぶ

開催時期は6月頃を予定



スポーツテーピング手技

現場で活用できるテーピング手技を学ぶ

足関節を中心にテーピング手技を学ぶ

開催時期は7月頃を予定



スポーツ外傷への急性期対応

救急救命士に学ぶ

スポーツ外傷に対する急性期対応の実技を実施

開催時期は8月頃を予定



スポーツ技能テスト

スポーツ現場に必要なスキルの確認を行う

項目：テーピング・熱中症・脳震盪・スポーツ外傷

開催時期は9月～10月頃を予定

* 開催時期はあくまでも予定となるため、TPTA HP または JPTA アプリをご確認ください。

本研修会を受けて、

スポーツ現場で活躍しているセラピストがたくさんいます！！

- ▶ 本研修で学ぶ急性期対応・評価技術は学校・地域・高齢者・パラスポーツなど幅広い運動現場で活用できます！
- ▶ スポーツ局では、テスト終了後も OJT を通して、現場での教育も行っています。
- ▶ その他、ブラッシュアップセミナーも企画していますので奮ってご参加ください。



登録はこちら！！

「東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム」の体力測定会参加報告

障がい者がスポーツを始めるきっかけ作りを目的として、東京都生活文化スポーツ局 スポーツ総合推進部 パラスポーツ課と東京都障害者スポーツ協会が主催する「東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム」の体力測定会に理学療法士を派遣しました。

今年度は、令和7年7月12日・8月3日に東京都パラスポーツトレーニングセンター、12月13日に江戸川スポーツセンターにおいて開催され、延べ120名の身体・知的・精神障害のある参加者に対して、握力・肩関節の柔軟性・長座体前屈・上肢長・ボール投げ・立ち幅跳び・垂直跳び・20m走・3分間走の測定を実施し、延べ55名の理学療法士が測定業務を担当しました。

スポーツを通じた障がい者支援から、社会参加支援の輪が広がっていくように、今後も活動を推進していきたいと思えます。



報告者 スポーツ局 パラスポーツ部 多賀留美

倫理委員会

倫理委員会では、理学療法士の倫理厳守の意識を高めることを目的として「倫理規定」等に関する啓発活動を実施しています。

新年度におきましては、職場内にて新入職者に対して研修などを行う施設もあるかと思えます。是非とも職場内においても倫理について共有する機会をつくって頂けたらと思えます。

○公益社団法人 日本理学療法士協会から倫理綱領が定められていますので、職場内でも共有して頂きたいと思えます。(以下、日本理学療法士協会 HP より)

倫理綱領

公益社団法人 日本理学療法士協会

序文

公益社団法人 日本理学療法士協会（以下、「本会」という。）は、理学療法士の社会的な信頼の確立と、職能団体としての本会が公益に資することを目的として、「倫理綱領」を定める。

本会ならびに理学療法士が、高い倫理感を基盤として相互の役割を果たす中で、理学療法の発展と国際社会への貢献のために、より良い社会づくりに貢献することを願うものである。

一、理学療法士は、全ての人の尊厳と権利を尊重する。

一、理学療法士は、国籍、人種、民族、宗教、文化、思想、信条、家柄、社会的地位、年齢、性別などにかかわらず、全ての人に平等に接する。

一、理学療法士は、対象者に接する際には誠意と謙虚さを備え、責任をもって最善を尽くす。

一、理学療法士は、業務上知り得た個人情報についての秘密を遵守し、情報の発信や公開には細心の注意を払う。

一、理学療法士は、専門職として生涯にわたり研鑽を重ね、関係職種とも連携して質の高い理学療法を提供する。

一、理学療法士は、後進の育成、理学療法の発展ならびに普及・啓発に寄与する。

一、理学療法士は、不当な要求・収受は行わない。

一、理学療法士は、国際社会の保健・医療・福祉の向上のために、自己の知識・技術・経験を可能な限り提供する。

一、理学療法士は、国の動向や国際情勢を鑑み、関係機関とも連携して理学療法の適用に努める。

○東京都理学療法士協会 倫理規定はこちら ⇒ [公益社団法人 東京都理学療法士協会 倫理規程](#)

○日本理学療法士協会 倫理啓発・ポスターはこちら ⇒ [理学療法士の倫理に関する取り組み | 協会からのお知らせ | 公益社団法人 日本理学療法士協会 \(japanpt.or.jp\)](#)

執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。
- 3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

<表記例>

・藤田信子, 榎田康彦・他: 椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動一筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.

・Sepic, S.B, Murray, M.P, et al.: Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women. Am. J. Phys. Med, 65:75-84, 1986.

・真島英信, 猪飼道夫: 生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.

・Junda, V.: Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁、著者頁

執筆投稿規定

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Emailアドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

(平成31年1月31日 改定)

編集後記

令和8年となりもう2ヶ月が過ぎようとしています。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。2月23日には理学療法士国家試験が実施されました。新年度から新しく理学療法士になれる方々のご健闘を祈らずにはいられません。さて本号237号は全49ページで構成され、様々な部局からの報告、お知らせがございます。ぜひ全体を通じてご一読いただければ幸いです。本会では昨年12月より公式ラインを始めました。この機会にぜひ登録をお願い申し上げます。(M.I)

X



フォロワー
1,165

Facebook



フォロワー
104

Instagram



フォロワー
688

公式ライン



友だち
183

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

11,513名(令和8年2月25日現在)

(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-58-7 ヴェラハイツ代々木201

Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036